第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	まちづくり市民ファン	事業番号	36–105		
	部名	部長名	課名		課等の長
事務事業担当	企画部	山口 清治	財政課	ŕ	細野 文和

		ま	ちづくり目標	5	みんなで考え実行	テするまち			
松 合計画 片 系	自治力	基本政策		10	市民と行政がとも	に力を合わせ	けて歩む	きちづくり	
総合計画体系	日行力	施	策展開の方向	2	次代へつながる確かな行財政運営ができるまちをつくる				
		施策		36	健全で安定的な				
予算事業名	財政運営事務費								
事務区分〔選択〕	● 自治事務	0	法定受託事務	(選	択してください)→	法令上の位置づけ		実施する規定はない	
事業開始年度	開始年度		平成25	年度	~	終了年度		_	
関連法令等									
国・県の計画等						計画期間	間		
関連個別計画						計画期間	間		
実施の背景 (事業を取りまく環境 ・市民ニーズ)								創造都市いせはら」の実現 対組が必要である。	
	市民等に特定の	の事業	色の実施に必要な	資金の-	一部を寄附すること	を通してまち	づくりを	応援してもらう「まちづくり」	
目 的 (何をどうしたいのか)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的	用し、	当該市民ファンドに	こ寄せら	れた寄附金を有効	めに活用して、	市が行	うまちづくりのための事業	
	民ファンド」を運用 円滑かつ計画的	制し、社会な実施	当該市民ファンドに	と寄せら	れた寄附金を有効	かに活用して、	市が行	うまちづくりのための事業	
(何をどうしたいのか) 主な対象	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附す	用し、語な実施者(企業のできる)	当該市民ファンドル を図る。 業、団体等を含む	こ寄せら。)公表を行	れた寄附金を有効 行うとともに、寄附は	かに活用して、	市が行	うまちづくりのための事業	
(何をどうしたいのか)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附す	目し、 と	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ・ 大の運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行	れた寄附金を有効 行うとともに、寄附1 性化を図ります。	かに活用して、	市が行	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確	
(何をどうしたいのか)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附者 ・制度周知や市員保と特産品の知名	目し、 と	当該市民ファンドル を図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の	こ寄せら。)公表を行	れた寄附金を有効 行うとともに、寄附に 性化を図ります。	かに活用して、	おが行	でうまちづくりのための事業 を新たに導入し、歳入の確 29年度	
(何をどうしたいのか)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附す	目し、 と	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ・ 大の運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行	れた寄附金を有効 行うとともに、寄附1 性化を図ります。	かに活用して、	おが行	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確	
(何をどうしたいのか)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附者 ・制度周知や市員保と特産品の知名	用し、説な実施者(企業ファンスを)	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ・ 大の運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行	れた寄附金を有効 行うとともに、寄附に 性化を図ります。	かに活用して、 こ対する返礼。 度 周知	おが行	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確 29年度	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附す ・制度周知や市日保と特産品の知る	用し、 (企) (企) (企) (会) (本) (*)	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ・ 大の運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行	行うとともに、寄附は 性化を図ります。 28年 制度原	かに活用して、 こ対する返礼。 度 間知 受入れ	おが行	でうまちづくりのための事業 を新たに導入し、歳入の確 29年度 制度周知	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附者 ・制度周知や市民保と特産品の知名 制度周知	用し、派を 者(企) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行	行うとともに、寄附は性化を図ります。 28年 制度月	かに活用して、 こ対する返礼。 度 引知 受入れ の公表	おが行	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確 を新たに導入し、歳入の確 29年度 制度周知 寄附金の受入れ	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的市民等の寄附ネ・制度周知や市民保と特産品の知る事所をの受入運用状況の公返礼品制度の	用した。 おは、とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の グップによる地域経	こ寄せら。)公表を行済の活	がれた寄附金を有効 行うとともに、寄附に 性化を図ります。 28年 制度月 寄附金の 運用状況 返礼品制度	かに活用して、 こ対する返礼。 度 引知 受入れ の公表 変の導入	おが行	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確 29年度 制度周知 寄附金の受入れ 運用状況の公表 返礼品制度の運用	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的 市民等の寄附者 ・制度周知や市民保と特産品の知名 制度周知 寄附金の受入 運用状況の公	用した。 おは、とのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の アップによる地域経	こ寄せら。)公表を行済の活	がれた寄附金を有効 行うとともに、寄附に性化を図ります。 28年 制度原 寄附金の 運用状況	かに活用して、 こ対する返礼。 度 引知 受入れ の公表 変の導入	品制度を	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確 29年度 制度周知 寄附金の受入れ 運用状況の公表	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的市民等の寄附ネ・制度周知や市民保と特産品の知る事所をの受入運用状況の公返礼品制度の	用した。 まな、とは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の グップによる地域経	こ寄せら。)公表を行が済の活大】	がれた寄附金を有効 行うとともに、寄附に 性化を図ります。 28年 制度月 寄附金の 運用状況 返礼品制度	た活用して、 こ対する返礼。 度 問知 受入れ の公表 をの導入	品制度を	でうまちづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確 29年度 制度周知 寄附金の受入れ 運用状況の公表 返礼品制度の運用	
(何をどうしたいのか) 主な対象 (誰・何を対象に) 事業内容 (手段、手法など)	民ファンド」を運用円滑かつ計画的市民等の寄附者・制度周知や市民保と特産品の知名を財産の受入では、関連の関係を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を	用した。 まな、とは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	当該市民ファンドにを図る。 業、団体等を含む ンドの運用状況の アップによる地域経 質目	こ寄せら。)公表を行が済の活大】	がれた寄附金を有効 行うとともに、寄附に 性化を図ります。 28年 制度原 寄附金の 運用状況 返礼品制度	た活用して、 こ対する返礼。 度 問知 受入れ の公表 をの導入	品制度を	できまらづくりのための事業を新たに導入し、歳入の確と新たに導入し、歳入の確定の受入れを開始をの受入れを開け、選用状況の公表を記れる。	

							事	業 実	施		(Do)		
	事業の「取組方針」 引き続き、制度を周知していくとともに、事業の成果が市民等に見えるようファンドの活用状況を公表していく。また、市外からの寄附金増収を図るため、返礼品制度の導入を進めていく。 (前年度事務事業評価)									いく。ま				
				○ すべて直	接実施		•	左記以外						
	実施方法			☑ 業務委託 □ 指定管理				委託先	委託先又は指定管理者 レッドホースコーボレーション(株)、バンク、ヤフー(株)				朱)トラスト	
	〔選択・記入〕		補助金					補助先						
								具体の内容						
				項目						00 /	:	年度		
				制度周知					28年度 制度周知			29年度		
		実施	結果		. T. Ja				-					
				寄附金の受						寄附金の受力				
				運用状況の公表						重用状況の2				
				返礼品制度	の導力				返	礼品制度の	導入			
身		した取	組の内容	一人でも多くの 寄附に対するù				るよう、制度	度周知や	市民ファント	ド運用状況(の公表を行うとともに、市タ	外からの	
				【指標名】								年度		
				寄附金受入額			万円		28年度 13,125万日	<u> </u>	29年度			
	目	標の達	成状況	77111 == 227	- H2	150)		73 3		10,120,01				
	年度				28年度 実績							29年度 実績		
	事業費合計(a)内国県支出金 ①地方債 ②その他特財 ③その他特財 ③一般財源 (a) -①-②-③			58,973					千円				千円	
				0					千円				千円	
				0					千円				千円	
				0					千円				千円	
				58,97					千円			0	千円	
	•]県支	出金の内容											
コス		その他	受益者負担	〇 有	•	無	前	回の改定	時期					
١Ŷ		財の日容	その他											
	人		正規職員	0.41 人		3,547		千円		人		千円		
	へ件費	その他の職員		0	人				千円		人		千円	
	_	人件費合計(b)		0.41	人			3,547	千円		人		千円	
	トータルコスト (a)+(b)			62,520					千円				千円	
	22.		対定義象		寄附額				単位				単位	
	当		数対象数					131,245	千円					
	Ι - ΄	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	総事業費 /対象数	476					円				円	

	Ī	平(西	(Check)
進捗状況 〔選択・記入〕	計画どおり(A)概ね計画どおり(B)計画どおり進捗せず(C)	А	左記 判断 理由	返礼品制度を導入するとともに、制度の周知や返礼品の充実に努めたことにより、寄附金の受入額は目標を大幅に上回るものとなった。
実施水準 〔選択・記入〕	他市より高い水準で実施(A)他市と同水準で実施(B)他市より低い水準で実施(C)● 一律に比較できない事業	1	他市事内等	自治体により寄附金を募る目的や仕組みが異なる。
有効性 〔選択・記入〕	高い (A)普通 (B)低い (C)	А	左記判断理由	寄附者の意向を踏まえ、教育の充実や福祉の充実等に係る 事業の財源として活用し、将来都市像の実現に向けたまちづく り推進の一助とすることができた。
効率性	効率的に実施されている(A)改善の余地がある(B)抜本的な改善が必要である(C)	А	左記 判断 理由	返礼品の充実に努めるとともに、ふるさと納税ポータルサイトへの掲載など、民間事業者のノウハウを効果的に活用することにより、寄附者の利便性の向上や制度の周知を図ることができ、目標を上回る寄附金額を受け入れる結果となった。



	取組内容の改善(Action)						
所属長 による 今後の 方向性の 判断	方向性 〔選択〕	● 現状のまま継続 事業推進上の ○ 見直しの上継続 課題	本事業の実施効果を高めるためには、本制度に対する市民等の一層の理解・賛同を得ることが重要である。また、返礼品制度については、ふるさと納税の趣旨に沿って、適切な制度運用を図っていく必要がある。				
次年	度の取組方針		こ、事業の成果が市民等に見えるようにファンドの活用状況を公表していく。まに、返礼品制度を適切に運用していく。				
所管	部長による総評		等からの寄附は、まちづくりのための事業の円滑かつ計画的な実施に寄与すくり市民ファンドに関する周知を充実していくとともに、市外からの寄附金増収 運用していく。				